

2014年6月15日～25日まで、カタール国のドーハで第38回世界遺産委員会が開催されました。

世界遺産登録数

新規登録遺産数

分類別合計

文化遺産：21件

779件

自然遺産：4件

197件

複合遺産：1件

31件

総数

1,007件

※ 登録範囲の変更により、2002年登録のメキシコ合衆国の『カンペチェ州、カラクムルの古代マヤ都市』が「文化遺産」から「複合遺産」へ変更となりました。

危機遺産リスト登録数

リスト入り3件

危機遺産 総数
46件

リスト脱した1件

◆ 危機遺産リスト入りした遺産

- ① セルー動物保護区【タンザニア連合共和国】
- ② ポトシの市街【ボリビア多民族国】
- ③ オリーブとワインの土地ーバティールの丘：南エルサレムの文化的景観【パレスチナ自治政府】
(2014年新規登録)

◆ 危機遺産リストを脱した遺産

- ① キルワ・キシワニとソンゴムナラの遺跡【タンザニア連合共和国】

遺産保有国数と登録数

◆ 新しく世界遺産保有国となった国

新しく、ミャンマー連邦共和国が世界遺産保有国となり、2014年9月現在、161の国と地域に世界遺産が存在する。

◆ 上位遺産保有国と保有遺産数

001. イタリア共和国【50件】
002. 中華人民共和国【47件】
003. スペイン【44件】
004. フランス共和国【39件】
004. ドイツ連邦共和国【39件】

日本の遺産数は18件で、13番目に世界遺産を多くもつ国である。

日本国



富岡製糸場と絹産業遺産群

Tomiooka Silk Mill and Related Sites

文化遺産

登録年

2014年

登録基準

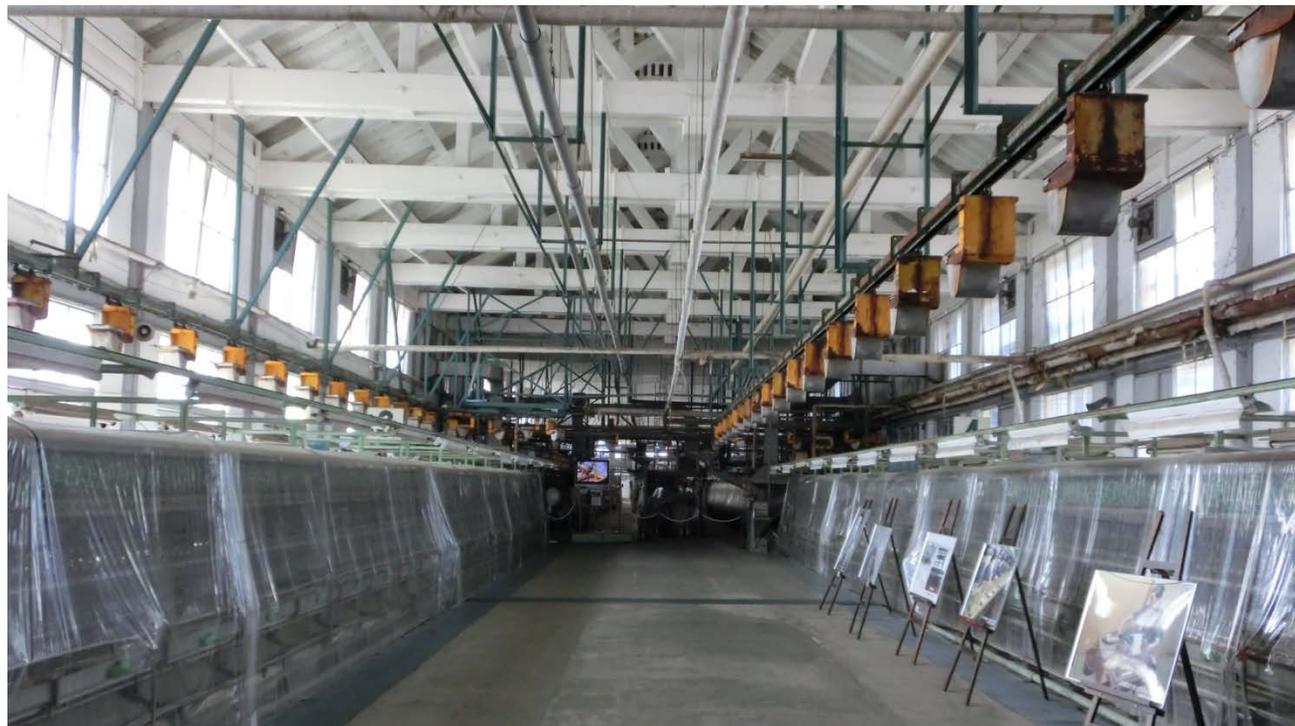
(ii)(iv)

▶ 生糸の大量生産を実現した技術革新の舞台

富岡製糸場をはじめ、田島弥平旧宅、高山社跡、荒船風穴の4つの資産で構成される。明治政府が1872年に設立した官営の器械製糸場である富岡製糸場では、フランスの技術を取り入れた技術革新により、江戸時代末期より日本の主要輸出品であった生糸の品質向上と大量生産を実現した。富岡で生産技術が確立し日本各地で生産されるようになった高品質の生糸は、かつては一部の特権階級のものであった絹を一般の人々にまで広め、世界中の人々の生活や服飾文化に大きな影響を与えた。

鎖国により近代化が遅れていた日本では、明治維新を経て近代国家へ仲間入りすることが喫緊の課題であった。明治政府は、江戸時代末期から日本最大の輸出品であった生糸を輸出品の軸に据えて貿易を拡大することを目指す。江戸時代の日本の生糸は品質が悪く海外からの評判も下がっていたため、明治政府はまずフランス人技師のポール・ブリユナを雇い入れ、官営の工場の建設と最新の器械製糸技術の導入をはかった。ブリユナにより工場建設の地として選ばれたのが、養蚕が盛んで土地も広く、水も豊富な富岡だった。

富岡製糸場では、西欧の技術と日本の技術が融合した**和洋折衷の建造物群**が作られた。富岡製糸場の繭倉庫や繰糸場は、日本古来の木造の柱に西欧伝来のレンガを組み合わせた**木骨レンガ造**と呼ばれる構造で作られおり、広い工場空間を確保するため三角形を基本とした屋根組みであるトラス構造も



見られる。窓ガラスや蝶番などはフランスから輸入されたが、石や木材などは群馬県内で調達された。また、壁に使われているレンガは、ブリュナの指導の下、日本の瓦職人が製造した。

ここでは、「西欧の製糸器械の導入」や「外国人を指導者とする」と同時に、「全国から工女を募集し、技術を修得した工女は出身地へ戻り器械製糸の指導者とする」ことが基本理念とされていた。当初は「異人に生き血



をしばりとられる」などとの噂が広まり、工女の募集は進まなかったが、各府県に人数を割り当てて工女の募集を行い、士族の娘などを中心に集められた。

全国から集められた工女の生活は、労働者福祉の面で配慮がなされた。食事や寄宿舎などが無料だっただけでなく、フランス人医師が常駐する病院が建設され、治療費や薬代なども工場側が負担した。また、労働時間や月給、服務規律なども定められており、工女たちは時代を先取りした労働環境で、最先端の製糸技術を身に付けた。工女たちがそうした最新技術を地元へ持ち帰り、指導者として広めることで、明治政府の目指した近代化が日本の津々浦々にまで浸透していった。

富岡製糸場は近隣の養蚕農家や養蚕施設、蚕種（蚕の卵）製造業者などと相互に連携して技術の交流と革新が行われた。とくに富岡製糸場が良質な繭を大量に確保するために行った繭の改良運動では、養蚕農家（蚕種製造）の田島家、養蚕教育研究機関の高山社、蚕種貯蔵の荒船風穴が、試験飼育や蚕種製造、飼育指導、蚕種貯蔵など優良品種の開発と普及に貢献した。

富岡製糸場では明治から大正・昭和に渡って生糸を作り続けてきたが、時代の流れに逆らうことはできず、化学繊維の普及による生糸価格の下落などのため1987年に操業を停止した。現在でも、工場内の主要な建物が創業当時の状態で良好に保存されている。

『富岡製糸場と絹産業遺産群』の構成資産

富岡製糸場	1872年（明治5年）に創業した官営模範工場。創業時の姿がほぼ完全な姿で残っている。
田島弥平旧宅	近代的な養蚕法である「清涼育」を開発した田島弥平の旧宅。自然の通風を生かしたヤグラ（越屋根）つき総二階建ての建物で、近代養蚕農家の原型となった。
高山社跡	近代的な養蚕法である「清温育」を開発した高山長五郎が、養蚕法普及のための教育機関として築いた建物。
荒船風穴	日本最大規模の、自然の冷気を利用した蚕種の貯蔵所跡。これにより年に複数回の養蚕が可能となった